

福岡県大川市で働く女性を対象とした 子宮頸癌に関する意識調査報告(第一報)

佐藤 信也^{1,2)}、富安 聡¹⁾、森山 良太¹⁾、大田 喜孝^{1,2)}

1) 国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 医学検査学科

2) 国際医療福祉大学 大学院 保健医療学専攻 臨床検査分野

【はじめに】

近年、本邦における子宮頸癌の罹患率は20代から30代の若年者で増加傾向にあり、年間に約12,000人が発症し、約3,500人が死亡している。

子宮頸癌の発症原因の9割以上はHuman papillomavirus (HPV) が関与していることが報告されており、定期的な検診を行うことは、子宮頸癌の発症を予防することに繋がる。

定期的な検診の有用性を認識するためには、子宮頸癌とHPVの関係性を十分に理解する必要があると考える。

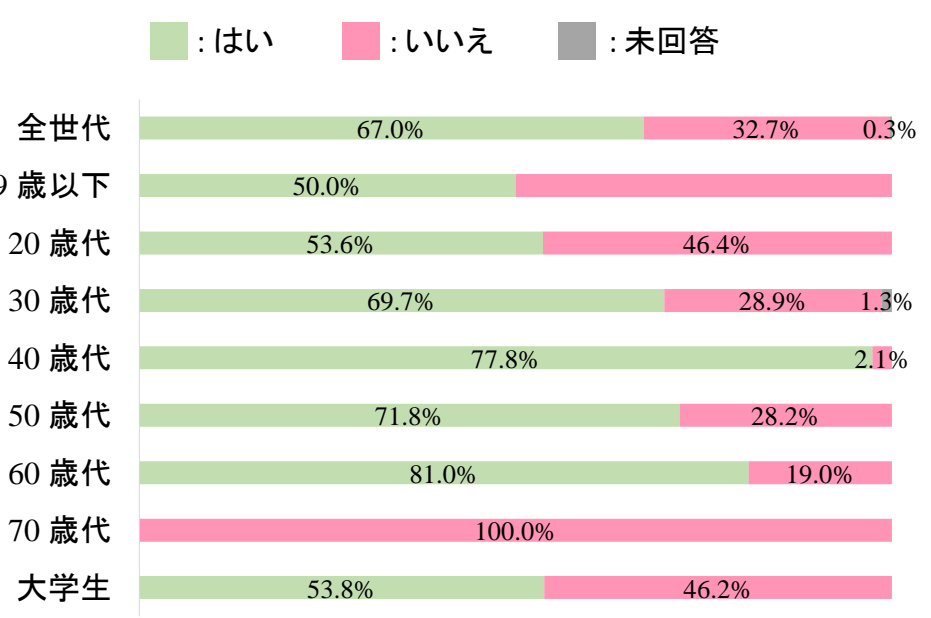
【アンケート調査内容】

- ① Human papillomavirus (HPV) について (3問)
- ② 子宮頸癌検診について (4問)
- ③ 予防ワクチンについて (3問)
- ④ 検診クーポンについて (2問)
- ⑤ 子宮頸癌検診の経験および今後の意識について (6問)

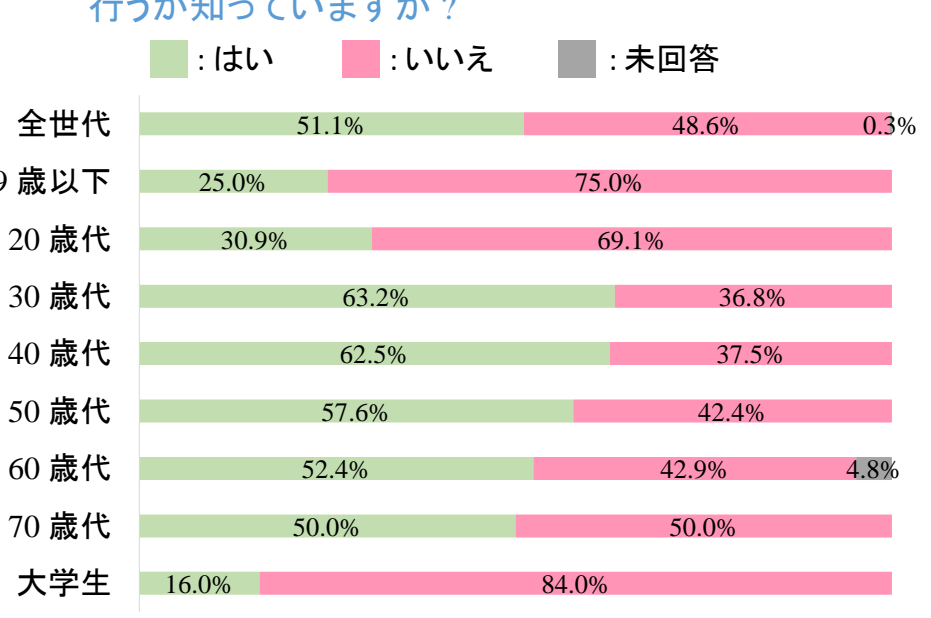
計 18 問

※ 本調査は、国際医療福祉大学倫理委員会の了承のもとに実施した。
(承認番号: 14-1fh-11、15-1fh-38)

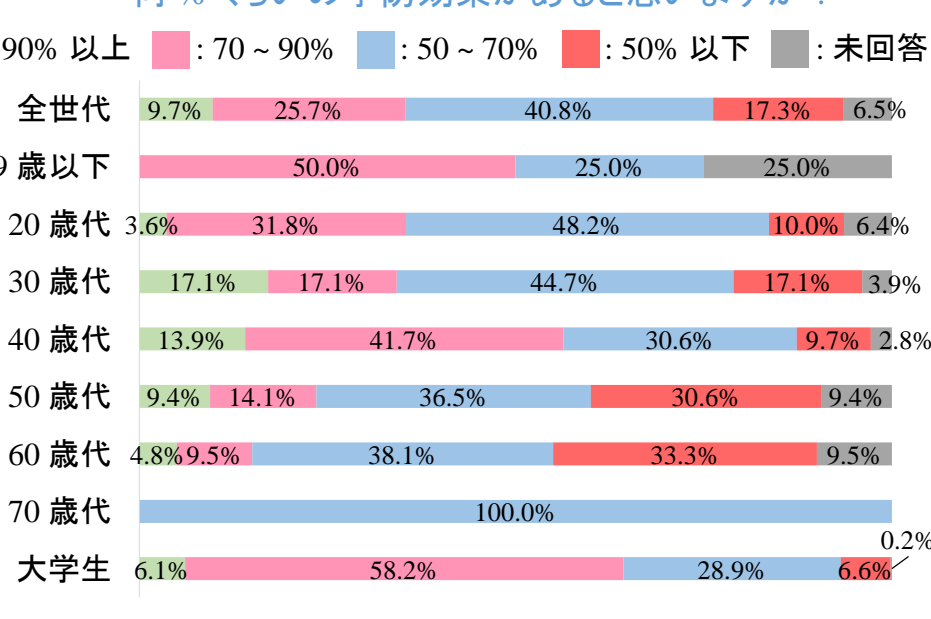
① 問 1. 子宮頸癌は HPV によって引き起こされることを知っていますか？



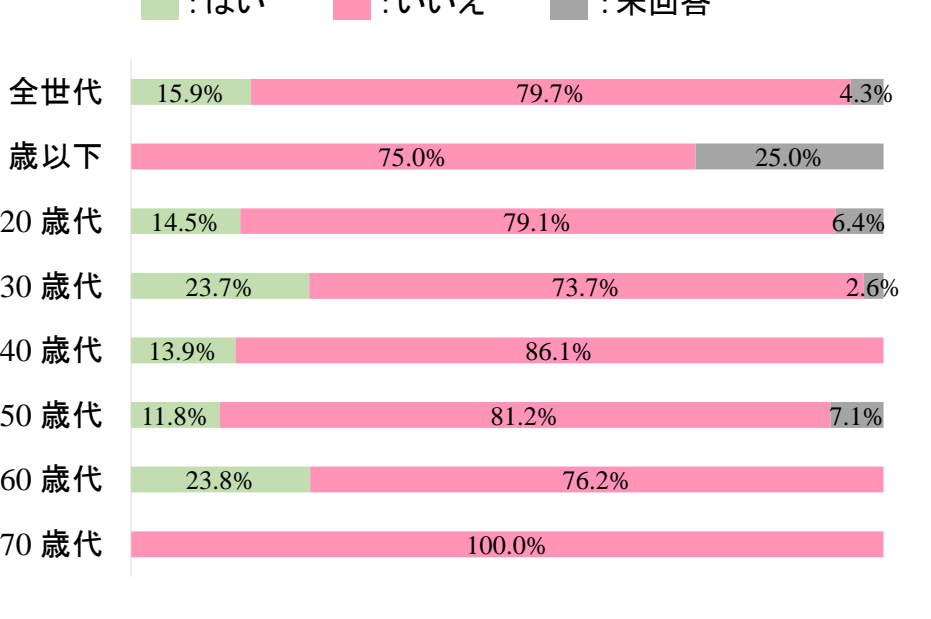
② 問 2. HPV は性交渉によって感染することを知っていますか？



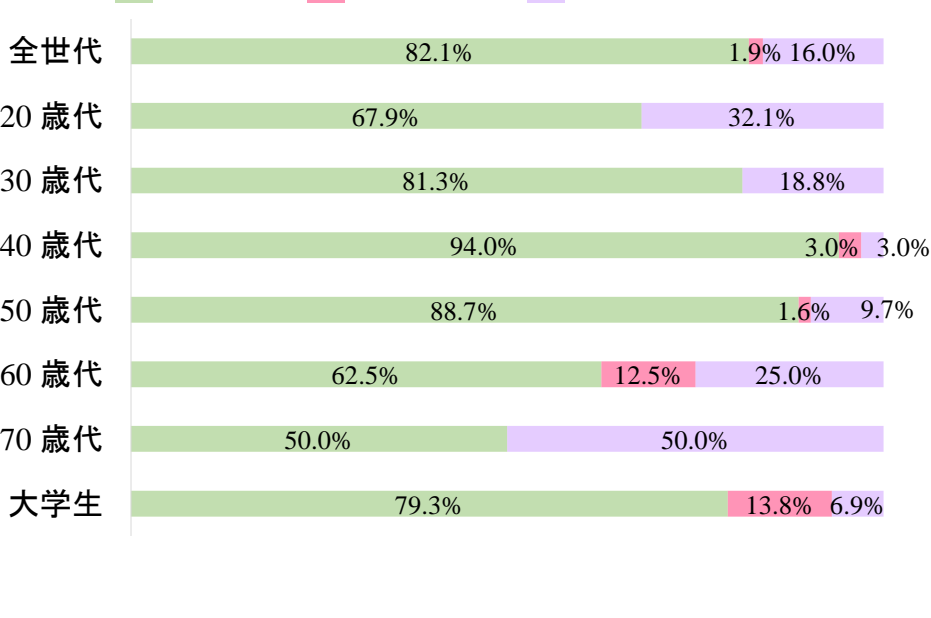
③ 問 3. 子宮頸癌は予防できる癌であることを知っていますか？



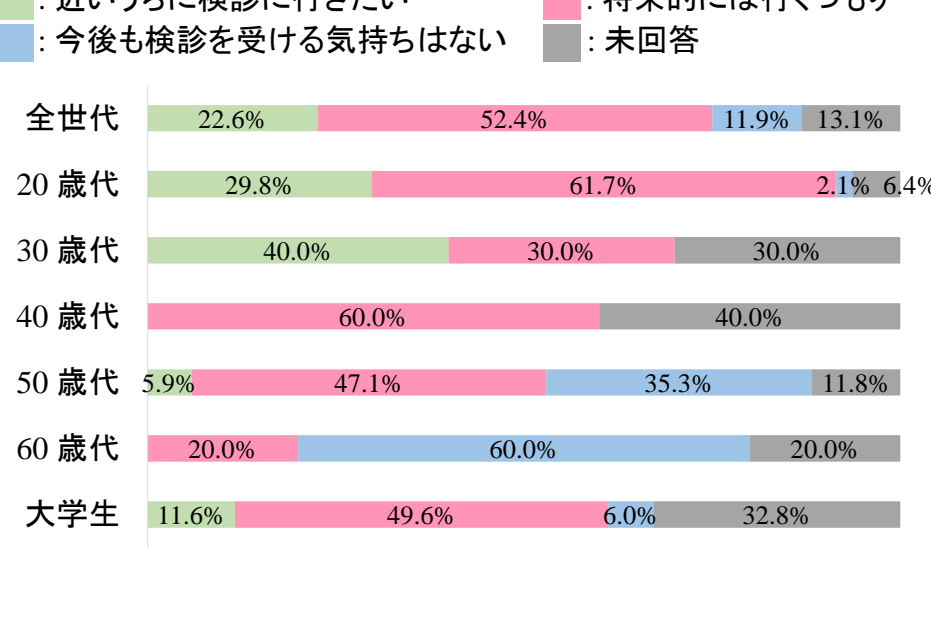
④ 問 4. 本邦の子宮頸癌検診率はどれくらいだと思いますか？



⑤ 問 5. 子宮頸癌検診には細胞診検査という方法が用いられていることを知っていますか？



⑥ 問 6. 子宮頸癌検診での細胞診検査とはどういう方法で行うか知っていますか？



⑦ 問 7. 子宮頸癌検診では、細胞診検査と共に HPV 検査を併用する自治体もありますが、どの様な検査か知っていますか？



⑧ 問 8. 子宮頸癌予防ワクチンを接種しましたか？

⑨ 問 9. 子宮頸癌予防ワクチン接種を受けた場合、何%くらいの予防効果があると思いますか？

⑩ 問 10. 問 8 で「いいえ」と回答した者のみ。ワクチンを接種しなかった理由は？

⑪ 問 11. 20歳から検診できる無料クーポン券が指定された年齢毎に自治体より配付されることを知っていますか？

⑫ 問 12. 無料クーポン券を利用したことがありますか？

⑬ 問 13. 問 13 で「はい」と回答した者のみ。今後も検診を続けますか？

⑭ 問 14. 問 13 で「はい」と回答した者のみ。どの機会に検診を受けましたか？(複数回答あり)

⑮ 問 15. 問 13 で「はい」と回答した者のみ。今後も検診を続けますか？

⑯ 問 16. 問 13 で「いいえ」と回答した者のみ。検診を受けていない理由は？(複数回答あり)

⑰ 問 17. 19歳以下の回答者のみ。検診年齢に達したら検診を受けようと思っていますか？

⑱ 問 18. 問 13 で「いいえ」と回答した20歳以上ののみ。今後の検診への意識は？

【考察】

- ・細胞診や HPV に関する知識・認識にやや乏しいため、早い段階での周知が必要である。
- ・職場検診を受けている人が 20 歳代で約 50% であるが、さらに高めることが重要である。
- ・若い女性が個人的にも気軽に検診行けるような場所の確立も考慮するべきである。

【結語】

- ・検査のスペシャリストが中学や高校に出向き講義をする機会を設けることも一案であるため行政との協力も必要である。
- ・家庭内でも偏見を持たず世代間で子宮頸癌について話をする機会を設けていただきたい。
- ・HPV は性交渉により感染することを男性も理解することが必要がある。
- ・今後も本学学生および大川市で働く女性の意識調査と啓蒙活動を継続予定のためご協力いただきたい。
- ・子宮頸癌および検診に対する意識が変わることを願いたい。

※ この演題に関連し、開示すべき COI 関係にある企業などはありません。